

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671800427		
法人名	医療法人 一樹会		
事業所名	グループホームサンファミリー		
所在地	徳島県美馬市脇町字拝原1354番地2		
自己評価作成日	平成28年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成28年11月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域住民の方と防災活動、祭りなどに職員・利用者様共に参加し、災害時の協役に役立つようコミュニケーションを図っています。ホームでの生活に農園作業・外出の機会を積極的に企画し、楽しく生き甲斐のある日々を送れるように支援しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、広々とした木造の平屋建てとなっており、四季の花々を生けるなどの環境整備にも取り組んでいる。近隣に同一法人の運営する医療機関があり、急変時などは24時間の対応が可能な状況を整備していることから、利用者や家族の安心に繋がっている。職員は、利用者の尊厳や権利を尊重し、一人ひとりに寄り添った支援に努めている。毎月、利用者の生活や健康状態を、写真入りのお便りとして家族へ送っている。利用者は、外出の機会も多く、農園では近隣の農家の方や小学校の人権委員の児童の協力を得て、野菜やサツマイモの苗植えから収穫までをともに行っている。事業所は、地域住民や消防署、農協等の協力を得て避難訓練を行ったり、ボランティアの来訪を積極的に受け入れたりして、地域との相互の交流を積極的に進めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域が一体となってサービス提供できるように理念を唱和し、常に念頭に置き実践している。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎月、全職員で理念の実現にむけた目標を定め、話し合うなどして具体的な方針を決めている。職員間で理念について確認し、情報を共有して日々の実践に繋げている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年さつま芋苗・柿など頂いたり、地域のイキイキサロンの際、氷を提供したりと地域との繋がりを大切に交流を続けている。	事業所では、地域の自治会の実施する清掃活動や防火訓練に参加している。また、近隣の農園の方の協力を得るなどして、地元小学校の児童とさつま芋の苗を育てており、栽培から収穫までを一緒に行っている。ボランティアの来訪も受け入れており、日常的に地域住民との交流を図っている。地域包括支援センターから相談を受けたり、社会福祉協議会との協力関係を構築したりして取り組んでいる。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護で得た認知症ケアに関する知識を地域交流の機会を通して、認知症の理解や支援の方法などを話し合っている。				
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様・家族様・地域包括支援センター職員・地域住民の代表者の方々に暮らしの状況を報告し、アドバイスを頂きサービス向上に反映している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況や行事について報告している。利用者や家族、地域住民、市担当職員等の出席を得ている。出席者から助言や意見を得ているが、議事録に記載したり、情報を職員間で活用したりするまでには至っていない。	運営推進会議で出された意見等を事業運営に活用することができるよう議事録を作成することと併せて、職員間で共有する機会を設けるなどの工夫が求められる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と連絡を取り、待機者の有無等また運営推進会議への出席を依頼している。	管理者が中心となって市窓口を訪問し、事業所の運営状況等を報告し、情報や助言を得ている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、往来の激しい立地条件の為、事故防止として施錠している。家族様に説明・了解は得ている。	年2回、事業所では、職員が身体拘束の弊害に関する研修会を受けことができるよう、機会を設けている。裏口の農園へ通じる入り口をつねに開錠するなどして、利用者と職員で日常的に散歩等へ出かけている。やむを得ず安全ベルトを使用する場合には、家族や市担当者と状況を共有するようにしている。また、職員間で身体拘束をしないケアについて話し合っている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を職員全員で行っており、虐待防止の徹底に努めている。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を行い、また家族様にも説明し必要に応じて活用が出来るよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書を理解と納得をされた後、署名捺印して頂いている。その後も状況に応じて説明し、同意確認を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に参加して頂き、利用者様・家族様の意見を表出させている。	毎月、家族へ利用者一人ひとりの生活記録等を記入したお便りに写真を添えて送っている。事業所として、本人や家族等が意見や意向等を表出しやすい雰囲気づくりに努めている。意見箱も設置している。出された意見等は、職員会議で検討するなどして運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、情報交換会やケース会議等の機会を通して、職員から運営に関する意見や提案を聞き取り、現場の意見や考え方を尊重しながら、ホームの運営に反映できるよう努力している。	管理者は、職員会議等の機会に職員の意見やケアに対する提案を聞くようにしている。職員会議に全職員が参加することができるよう回数を増やすなどして工夫している。管理者は、日頃の業務を通じて職員の話に耳を傾け、働く意欲の向上や質の確保に努めている。年2回、代表者は職員から意見を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、更に休養が確保できる休日体制をとるなどして、働きがいのある職場環境や労働条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念に適した人材を育成するために、ホーム内研修会を実施したり、介護理念や技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は美馬市グループホーム連絡協議会に参加しており、今後職員のホーム間交流を実施していく予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や要望には、謙虚に耳を傾け、安心して生活が送れるよう全職員は利用者様・家族様と良好な関係作りに努めている。				
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望などを聞かせて頂き、問題の解決を図っていけるよう、家族様との信頼関係の構築に努力している。				
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様が今一番必要としている支援を見極め、必要があれば医療面でのサービスも提供している。				
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員は調理や掃除等日常生活を共に過ごす中で、相互に支え合うという関係の構築に努めている。				
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を支援するにあたり、何事も家族様に相談し意向を尊重しながら、本人を支えていくという関係作りに努力している。				
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪時には、湯茶をもてなし話がスムーズにできるようきっかけ作りをしている。	事業所では、家族の協力を得るなどして、利用者一人ひとりがこれまで培ってきた人間関係や地域社会との関係性の把握に努めている。利用者は、行きつけの理・美容院に出かけたり、携帯電話で知人や友人と話をしたりしている。また、友人や知人の来訪も多くある。家族の協力を得て外出や買い物等に出かけており、馴染みの人や場所との関係が途切れることのないよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様の特徴を把握し、利用者様同志良好な関係の下、支え合いが出来るよう調整役となって支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			東ユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も、入院時は面会に行くなど連絡をとりながらその後の様子を探るなどして、関係継続に努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の暮らし方への希望や意向の把握に努めている。 意思決定が困難な方は、家族様等から情報を収集し希望や意向に沿うよう支援を行っている。	職員は、日頃の利用者との関わりのなかで、一人ひとりの言葉や動作等から本人の思いや希望を把握しよう努めている。また、家族の訪問時やアセスメントの際に、生活スタイルや習慣を聞くなどして利用者の希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の基本情報台帳にて、今までの生活情報を把握している。 本人様のプライバシーに十分留意しながら、必要性を本人様や家族様に十分説明している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の焦点情報(私に出来ること・出来ないことシート)の活用により、出来ないことより出来ることに注目しながら生活能力全般への把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様より、生活習慣・好み、意向や希望等を聞き、その人にとってよりよい介護計画の作成に努力している。モニタリングにより、適切に介護計画の変更を行っている。	事業所では、本人や家族、職員間で話し合いやモニタリングなどを行っている。利用者一人ひとりの現状に応じた介護計画を作成するよう努めている。利用者の心身状況に応じて、計画所の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、昼夜にわたり生活の様子や足跡、心身の変化等を記録している。その情報は職員全体で共有しながら、ケアの意義や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況や家族様の実情に応じて、買い物の送迎・散髪・受診介助など、臨機応変な対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力を得て、農園での作業を取り入れ、収穫を共に分かち合っている。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様と話し合い、本人様にとって適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。職員が受診時の同行を行う場合もある。家族の協力を得たうえで、利用者が適切な医療を受けることができるよう支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が利用者様の健康管理を行っている。母体法人の医療とも連携をとりながら、適切な対応を行っている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と相談しながら、入退院が円滑に進められるよう取り組みを行っている。退院後のケアについても情報交換しながら支援している。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたケアについて、本人様・家族様に説明し話し合っている。重度化した場合は、本人様・家族様の意思を尊重し支援している。	事業所では、終末期支援に関する指針を整備している。契約時の段階で、利用者や家族に説明し同意を得ている。利用者の体調や心身状況の変化に応じて、本人や家族の意向を再確認している。また、かかりつけ医や関係者間で方針の共有化を図り、本人や家族の意向に添うことができるよう支援している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会を実施して、全ての職員が事故や災害など実際の場面で対応に万全を期すことができるよう取り組んでいる。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が避難場所を把握している。消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練や通報訓練・消火器の使用訓練などを行っている。	事業所では、災害時の対応マニュアルを作成している。年2回、地域住民や消防署、消防団、農協等の協力を得て、日中と夜間を想定した避難訓練等を実施している。地震等の災害も想定しており、利用者も訓練に参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に関する研修を定期的に実施している。利用者様は人生の大先輩であることを常に念頭に置き、傍に寄り添いゆったりとした雰囲気の中で話しかけている。	職員は、日頃の利用者一人ひとりとの関わりのなかで、性格や習慣、意向などを踏まえた言葉かけに留意している。利用者一人ひとりの人格を尊重したケアについて職員間で話し合っている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が希望や自己決定できるよう、職員が雰囲気作りを行っている。また、利用者様が自分の意思で希望や願いを決定できるよう働き掛けを行っている。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から発案し働きかけを行い、利用者様に決定して頂いている。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室の洗面台に利用者様の使い慣れた化粧水・乳液など置き、鏡を見ながら身だしなみを整えている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることは準備から手伝って頂き、職員も同じテーブルを囲みながら楽しく食事できるよう雰囲気作りを心掛けている。	法人として栄養部会を設けており、職員の食育や栄養に関する意識の向上に努めている。家庭菜園や近隣の畑で採れた旬の食材を用いて献立を立てている。利用者と職員は、調理から下膳までの一連の行為を、会話を楽しみつつもに行っている。バイキングの日も設けており、利用者にとって食事が楽しみなものとなるよう工夫している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により各人のカロリーや水分飲用量が管理されており、カロリー過不足や栄養の偏りがないように毎日の摂取量を記録しながら利用者の食生活を支援している。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後居室にて口腔ケア出来るように、声掛け誘導を行っている。職員の見守りの下、自力でブラッシング・うがい出来るよう支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い各人の排泄パターンを把握し、尿パッドを使用している。利用者様には排泄前誘導へと繋げていけるように、トイレ誘導介助を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握したうえで、トイレへのさりげない誘導を心がけている。本人の心身状態に応じて、トイレでの排泄や自立に向けた支援に努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、なるべく繊維質の多い食物や朝食に牛乳・ヨーグルトなどの乳製品を提供している。水分量もチェックし、一日1Lを目安に飲用できるように心掛けている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在は日中入浴であるが、希望があれば何時でも入浴できるよう支援体制を整えている。	事業所では、週単位で基本的な入浴日や時間を定めているが、本人の希望にも応じることができるようにしている。入浴を拒む方にも、声かけや気分転換を行うなどして、無理強いすることなく入浴できるよう支援している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後横になりたい、と希望される利用者様には適宜対応している。また夜間不眠の方には、昼夜逆転にならないよう配慮した支援を行っている。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の処方内容ファイルを用い各人の服薬内容を把握し、服用時の確認を行っている。また服薬による異常や変化が見られる時には、医師や家族様に連絡し適正な対処が出来るよう支援している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の基本情報を基に、役割や楽しみ事を見つけ出し自分らしい暮らしが出来るよう支援している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の習慣や楽しみごとに合わせた外出の機会作りをしている。買い物・散歩・草花や菜園の手入れなど、戸外に出て気分転換しながら屋外活動を楽しめるよう支援している。	日頃から利用者は散歩や買い物に出かけている。事業所では、利用者の希望を取り入れた外出についての年間計画と月間計画を作成している。歩行の困難な方も、ともに外出することができるよう、家族の協力を得て支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	東ユニット		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行きレジ支払いの際、職員の付き添いの下、利用者様ご自身で支払いをして頂いている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様には、御家族・知人様とのやりとりを自由に行っており、またホームの電話利用は、何時でも話ができるよう支援している。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには各月毎に季節感溢れる壁面題材や、四季折々の草を飾ったり、また遮光カーテンにより室温・光線の調節を行っている。	共有空間は日当たりが良く、明るく清潔感がある。利用者一人ひとりが居心地良く過ごすことができるよう空間整備を行っている。壁面には、絵画や写真を飾ったり、随所に季節の花を生けたりしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールの所々にソファを設置し、気の合う方との会話ができるよう工夫している。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	園芸が趣味である利用者様には、居室に鉢植えの花を置き水やりなど手入れが出来るよう対応している。	事業所では、利用者が居心地良く過ごすことができるよう、本人の馴染みの家具等を持ち込んでもらっている。本人や家族、職員間で相談し、安全面にも配慮した家具の配置や環境整備等を行っている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な利用者様には、居室内へ手摺を設置したり、ベッドの位置を変えるなどして、安全の確保に努めている。				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と地域が一体となってサービス提供できるように理念を唱和し、常に念頭に置き実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に会ったら挨拶している。江原南小学校人権委員会の児童との交流(さつま芋の植え付け・収穫など)をし、地域の方からは野菜苗を頂いたりしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常介護で得た認知症ケアに関する知識や経験の中から地域交流の機会を通じて、高齢者の暮らしに少しでも役立つような取り組みを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域自治会長様より防災訓練に参加させて欲しいとの声を頂き、協力のもと訓練を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員と連絡を取り、待機者の有無等また運営推進会議への出席を依頼している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員共有の認識の下、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。夜間の施錠は、不審者など部外者への対策として施錠することを御家族様に説明し了解を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の定義や虐待の早期発見などに学習しながら、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修を行い、また家族様にも説明し必要に応じて活用が出来るよう支援している。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容をゆっくり説明し、利用者様・家族様に十分納得頂いた上で署名捺印し、契約締結を行っている。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様・家族様の意見や苦情は気軽に相談して頂き、ホームの運営に反映できるよう努力している。					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、情報交換会やケース会議等の機会を通して、職員から運営に関する意見や提案を聞き取り、現場の意見や考え方を尊重しながら、ホームの運営に反映できるよう努力している。					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定められた労働時間を厳守し、更に休養が確保できる休日体制をとるなどして、働きがいのある職場環境や労働条件の整備に努めている。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	理念に適した人材を育成するために、ホーム内研修会を実施したり、介護理念や技術の向上に努めている。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は美馬市グループホーム連絡協議会に参加しており、今後職員のホーム間交流を実施していく予定である。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の不安や要望には耳を傾け、全職員が利用者様・家族様と良好な関係を作り、安定した生活が送れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様との信頼関係の構築に努力し、要望や問題解決を図っていけるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様が今一番必要としている支援を見極め、必要があれば医療面でのサービスも提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護職員は日常生活を共に過ごす中で、相互に支え合うという関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様を支援するに当たり、家族様と「支え合う」という共通の認識に立って、何事も家族様に相談しその意見を尊重しながら本人様を支えていくという関係作りに努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の来訪時には、ゆっくり話をしたり湯茶をもてなすなど配慮しながら、これまでに培ってきた人間関係が途切れることのないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者様個々の個性や特徴を把握し、楽しく過ごせるよう努めている。また、職員は利用者様同士の支え合いが出来るよう調整役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居された利用者様には、時々お見舞いに行き様子を尋ねるなどして関係継続に努めている。					
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様の希望や意思の把握に努めている。また、家族様来訪時には近況報告すると共に意向も伺っている。					
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の基本台帳より、今までの生活情報を把握している。また聞き取りをする際には、本人様・家族様のプライバシーには十分配慮しながら行っている。					
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式の焦点情報(私に出来ること・出来ないことシート)の活用により、出来ないことより出来ることに注目しながら生活能力全般への把握に努めている。					
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様より、生活習慣・好み、意向や希望等を聞き、その人にとってよりよい介護計画の作成に努力している。モニタリングにより、適切に介護計画の変更を行っている。					
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、昼夜にわたり生活の様子や足跡、心身の変化等を記録している。その情報は職員全体で共有しながら、ケアの意義や介護計画の見直しに活かしている。					
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状況や家族様の実情に応じて、買い物の送迎・散髪・受診介助など、臨機応変な対応を行っている。					

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人様の意向を最大限に尊重しながら、地域社会との交流が出来るようボランティアの導入を図るなどしている。					
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様・家族様と話し合い、本人様にとって適切な医療が受けられるよう支援している。					
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師が利用者様の健康管理を行っている。母体法人の医療とも連携をとりながら、適切な対応を行っている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様と相談しながら、入退院が円滑に進められるよう取り組みを行っている。					
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期に向けたケアについて、本人様・家族様に説明し話し合っている。重度化した場合は、本人様・家族様の意思を尊重し支援している。					
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応への研修会を実施して、全ての職員が事故や災害など実際の場面で対応に万全を期すことが出来るよう取り組んでいる。					
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全員が避難場所を把握している。消防署や地域の方の協力を得て、避難訓練や通報訓練・消火器の使用訓練などを行っている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			西ユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護に関する研修を定期的に実施している。利用者様は人生の大先輩であることを常に念頭に置き、傍に寄り添いゆったりとした雰囲気の中で話しかけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の思いや、希望・好み等が表出できるような雰囲気作りを行うと共に、自分の意思で希望や願いを決定していけるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側から発案し働きかけなど行い利用者様に決定して頂いており、より好ましい生活支援が出来るよう取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みに応じた衣服を選んだり化粧水で肌を整えたりするなど、個性あるおしゃれや身だしなみの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることは準備から手伝って頂き、職員も同じテーブルを囲みながら楽しく食事できるよう雰囲気作りを心掛けている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により各人のカロリーや水分飲用量が管理されており、カロリー過不足や栄養の偏りがないように毎日の摂取量を記録しながら利用者の食生活を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後居室にて口腔ケア出来るように、声掛け誘導を行っている。職員の見守りの下、自力でブラッシング・うがいが出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている		排泄チェック表を用い各人の排泄パターンを把握し、尿パッドを使用している。利用者様には排泄前誘導へと繋げていけるように、トイレ誘導介助を行っている。				
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		自然排便を促すために、なるべく繊維質の多い食物や朝食に牛乳・ヨーグルトなどの乳製品を提供している。水分量もチェックし、一日1Lを目安に飲用できるように心掛けている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている		現在は日中入浴であるが、希望があれば何時でも入浴できるよう支援体制を整えている。本人の気持ちや習慣にあった支援をしている。				
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		睡眠チェックシートを活用しながら、個々に応じた生活リズム作りと安眠導入への支援を行っている。日中はその人の疲労度に応じて、休息がとれるよう配慮している。				
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		薬の目的や副作用・用法用量を職員が把握し、服用時の確認を行っている。服薬による異常や変化が見られる時には、医師や家族様に連絡し適正な対処が出来るよう支援している。				
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		毎日の暮らしの中で、利用者様の役割や楽しみ事を見つけ出し自分らしい暮らしが出来るよう支援している。				
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		利用者様の習慣や楽しみごとに合わせた外出の機会作りを行っている。買い物・散歩・草花や菜園の手入れなど、戸外に出て気分転換しながら屋外活動を楽しめるよう支援している。				

自己	外部	項目	自己評価	西ユニット	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談の上、お金を持つということの大切さを認識しながら、出来るだけ小遣い程度を自己管理してもらえるようにしている。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている利用者様には、御家族・知人様とのやりとりを自由に行っており、またホームの電話利用は、何時でも話が出来よう支援している。					
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには各月毎に季節感溢れる壁面題材や、四季折々の草を飾ったり、また遮光カーテンにより室温・光線の調節を行っている。					
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール・廊下等のコーナーにソファや椅子等を設置し、利用者様一人で過ごしたり仲の良い者同志でくつろげるよう居心地のよい生活空間を確保している。					
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の状況に応じて、家族の写真や手作りカレンダーなど居室に飾るなどして、居心地よく過ごせるよう工夫している。					
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な利用者様には、居室内へ手摺を設置したり、歩行器で目的地まで移動するなどして、安全の確保に努めている。					